正誤表

万全を期して作成したつもりですが，初版で既にいくつか間違いのご指摘をいただいております。ご指摘に御礼申し上げ，また，ここにお詫びして修正をご報告いたします。

page	誤	正	解説
p.6	R コード `n <- 2500`	`n <- 25`	テキストでは $n = 25$ の例として示していましたが，コードは続く $n = 2500$ の例を実行するものになっていました。
p.6　5 行目	実際に帰無仮説が採択される	実際に帰無仮説が棄却される	
p.6　6 行目	有意水準 $\alpha = 0.05$ 以下	有意水準 $\alpha = 0.05$ 未満	
p.7 コード内のコメント	データが当初の倍になるまで増やし続ける	データが当初の 3 倍になるまで増やし続ける	
p.10（下から 5 行目）	わかりやすく書いる書籍	わかりやすく書いている書籍	
p.18 L7	B は A と同じく x を 3 列 2 行に	B は A と同じく x を 3 行 2 列に	row は行，col は列です。失礼しました。
p.18	R の出力の要素が全て 0 になっている	1 から 24 までの数字が順に入ります。	array 関数が配列を指定するものです。
p.26	R コード `Species = "setosa"`	`Species == "setosa"`	等価演算子は==です
p.26-27	出力	コード	右肩に「出力」と書かれているブロックは、「コード」が正しいです。
p.35-36	出力	コード	右肩に「出力」と書かれているブロックは、「コード」が正しいです。
p.40	決して実行しないでくださいのコード	変更なし	R ではカウンタ変数は別途割り当てられるので，永久ループにはならないそうです。しかしプログラミング言語として，一般的に避けるべき作法です。
p.41	R が永遠の計算ループから抜け出せなくなります。	抜け出せなくなることはありませんが，おかしな挙動になります。	両方 `i` で回すと，内側の `i` ループが外側の `i` ループ分繰り返されるという動きになります
p.47 脚注 22	¦ や ¦¦	本文中のコードと同様に、|や||	
p.49	モジュロ；odulo	モジュロ；modulo	
p.80	R コード `MC_demo()`	`mc_demo()`	
p.104	R コード最後の行内 `df(line_x,df1 = nu_1, df2= nu_2)`	`df(line_x,df1 = 1, df2= nu)`	これに伴い、図 3.29 の曲線もわずかに変化します（ヒストグラムに変化はありません）。
P.124	図 4.2 の結果を導いた	図 4.1 の結果を導いた	
P.134	R コード `var_p`	`var_p()`	R のネイティブパイプは，関数 () の形に渡すことが必要です (magritter のパイプ演算子`%>%`であれば問題ありません)
P.142 本文下から 3 行目	サンプルサイズ n が 4、10、100 と大きくなるにつれて	サンプルサイズ n が 4、20、100 と大きくなるにつれて	
P.143 図 4.14			誤った画像ファイルが挿入されていました。コードを実行して出力される図が正しいです

page	誤	正	解説
P.152 コード 最終行	`df = n - 2`	`df = n - 1`	p151 の数式と対応するので、`-1` が正しいです
P.182	R コード `t.test(sample_r)$conf.int[1:2]`	`cor.test(dat_obs[, 1], dat_obs[, 2])$conf.int[1:2]`	出力も `[1] 0.3787639 0.8187475` となります。
P.181	パーセンタイル信頼区間の方が広くなっています。	今回はパーセンタイル信頼区間の方が狭くなっています。	ここは一般的に狭くなるわけではないので。
P.182	Fisher の Z 変換の上限 (`0.4973`) と下限 (`0.5011`)	上限は `0.5897387`，下限は `0.4217412`	R のコード変更に伴って修正させていただきます。